



岡田 聡議員

保育所環境の改善を

教育委員長 全体構想をまとめる

問 町内の10保育所は、園児が定員に満たないところから、定員より多いところまでさまざまである。保育空間もゆつたりと、行き届いた幼児教育がなされている保育所もあれば、教室の数も足りず、すし詰め状態で十分に動き回る空間も少なく、保育士1人が受け持つ児

童も多く、行き届かない保育所もある。所子保育所は、過密状態に加え、建物の老朽化が著しく、劣悪な環境で保育が行われているがどうか。

教育審議会は、保育所については適正規模での統合を答申した。時間をかけて保護者や地域そし

て町民の合意形成の後、統合保育所を新設するの

か。

特に、所子保育所の老朽化と定員以上の入所園児数については、早急に解決しなければならぬ課題である。保育士は本

当によく頑張っている。教育委員会では保育所再編について全体構想を

まとめ、その優先順位についても検討している。その中でも所子保育所の

新築は、最優先に考えるべきという委員全員の認識である。

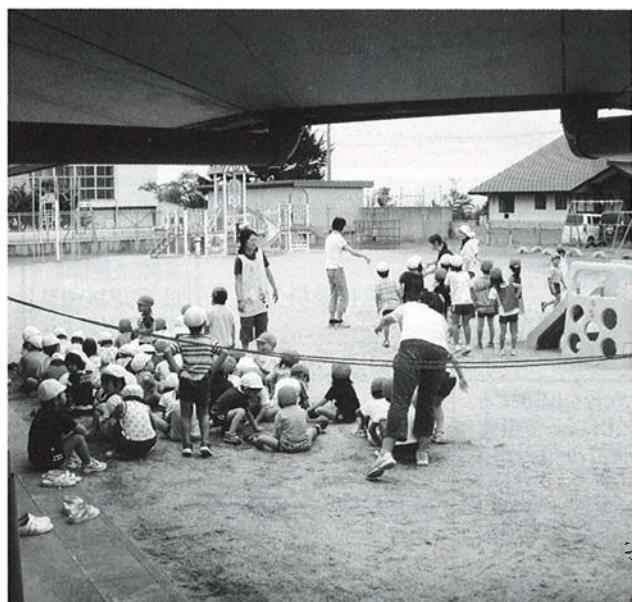
今後、保護者をはじめ、地域の人に具体的な方針を提示し、理解を得たい。できるだけ早い時期に建設場所の決定と設計を行い、

大山地区の新しい拠点保育所としての開所をめざしたい。

か。

答 伊澤教育委員長

答 伊澤教育委員長



過密状態の所子保育所

児童・生徒の学力向上策は

教育委員長 教育施策や生活習慣の改善

問 本町の学校教育基本計画には、学校教育は、一人ひとりの人間形成と

社会の形成者の育成をめざすとある。その実現には、子ども一人ひとりの

進路を保障するための確かな学力の習得、自己を

確立し互いを認め合う人権意識や道徳性を高める

心の教育の充実、コミュニケーション能力の育成

等が課題と示されている。成績のみがすべてでは

ないと考えるが、今年度の全国学力テストの結果

を今後の学校教育にどう生かすのか。

連続全国一となった秋田県では「論理を学ばせる」「自分で考えさせる」を基本に教えているようである。どう考えるか。



元気いっぱいの子どもたち

答 伊澤教育委員長

調査を実施する目的は、教育委員会が教育施策の

成果と課題を把握し、その改善を図ること、そして

学校が各児童生徒の学力や学習状況を把握し、

学習指導や学習状況の改善に役立てることにある。

本町でも教育委員会と学校が一緒になって学力向上プロジェクト会議を設

け、町全体の調査結果を

分析し、今までの教育施策や各学校の取り組みの成果や課題を明確にして、その改善に努めてきた。

児童・生徒にしっかりとした学力を身に付けさせるためには、教師の指導力の向上や指導方法の工夫改善を図ることが重要である。しかし、それだけでなく基本的な生活習慣を改善したり、規範意識を高めることも大切である。学校と家庭と地域が一体となって子どもを育てる気運を高め、学力向上を図っていくことが重要である。